

## 〈 セミナーのご案内 〉

● 配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回					
覧					

高等教育活性化シリーズ 393 (通算 724 回)

2019 年 7 月 11 日 (木)

“審査システム 2018” 2 年目への対応 ——

# 科研費改革の進展と申請・獲得方策Ⅲ

高等教育活性化シリーズ 397 (通算 728 回)

2019 年 7 月 26 日 (金)

オープンサイエンスの情報インフラと活用 ——

# 研究・実験データの保管・共有の推進方策Ⅱ

“審査システム 2018” 2 年目への対応 ——

# 科研費改革の進展と申請・獲得方策Ⅲ

～ 新審査の要点と留意点/計画調書作成のチェック/支援の実際 ～

- ※ 50 年ぶりの大改革とポイント/検証と改善・充実/国際共同研究・若手研究者への支援
- ※ 研究マネジメントとしての科研費支援/研究計画書の作成・改善のチェックポイント
- ※ 大学と大学人にとっての科研費研究の P D C A / 小・中規模大学ほど変えられる研究風土

### ● 講師陣 ●

牛尾 則文 氏 / (独) 日本学術振興会 理事  
岡野 恵子 氏 / (公) 横浜市立大学 URA 推進室 特任講師 (URA)  
大澤 清二 氏 / 大妻女子大学 副学長 博物館 館長 人間生活文化研究所 所長

【企画協力：学校法人 城西大学】

2019 年 7 月 11 日 (木) 城西大学 東京紀尾井町キャンパス 3 号棟 国際会議場 (東京・麹町)

オープンサイエンスの情報インフラと活用 ——

# 研究・実験データの保管・共有の推進方策Ⅱ

～ 研究データ管理のプラットフォーム/研究者・大学の取組みと責務 ～

- ※ 世界と日本の最新動向/政府・研究助成機関の動き/データインフラ整備/大学の責務
- ※ [JSPS] 人文学・社会科学データの共有・活用の制度基盤の構築事業/諸外国の事例
- ※ [NII] リサーチ・データ・クラウド/データ管理サービスの詳細/実証実験の報告
- ※ 研究データマネジメントの全学的取組み/ボトムアップでの模索/理想の研究 DM 環境

### ● 講師陣 ●

船守 美穂 氏 / 国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授  
オープンサイエンス基盤研究センター 政策・連携担当  
前田 幸男 氏 / (独) 日本学術振興会 人文学・社会科学データインフラストラクチャー  
構築推進センター プロジェクトオフィサー  
東京大学大学院 情報学環 教授  
込山 悠介 氏 / 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 助教  
オープンサイエンス基盤研究センター 助教  
青木 学聡 氏 / (国) 京都大学 情報環境機構 IT 企画室 准教授

2019 年 7 月 26 日 (金) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)



地域科学研究会 高等教育情報センター

[ 参加要領 ]

日時： ■高等教育活性化シリーズ 393 科研費改革の進展と申請・獲得方策Ⅲ

2019年7月11日(木) 10:00~16:40

会場：城西大学 東京紀尾井町キャンパス3号棟 国際会議場(東京・麴町) 千代田区平河町2-3-20  
(東京メトロ有楽町線「麴町駅」、1番出口より徒歩5分。東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」、1番出口より徒歩5分)

日時： ■高等教育活性化シリーズ 397 研究・実験データの保管・共有の推進方策Ⅱ

2019年7月26日(金) 10:00~16:50

会場：日本教育会館 会議室(東京・神保町) 千代田区一ツ橋2-6-2 TEL03-3230-2833  
(東京メトロ半蔵門線・都営新宿線「神保町駅」、A1出口より徒歩3分)

参加費(税・送料込)	ご一名(資料代を含む)	メディア参加(資料及び音声CD)
高等教育活性化シリーズ 393	40,000 円	41,000 円
科研費改革の進展と申請・獲得方策Ⅲ	高等教育同人 20,000 円	高等教育同人 21,000 円
高等教育活性化シリーズ 397	41,000 円	42,000 円
研究・実験データの保管・共有の推進方策Ⅱ	高等教育同人 21,000 円	高等教育同人 22,000 円

- ※ メディア参加とは会場に来られない方の参加形式で、開催後に当日配布資料及び音声CDを送付します。
- ※ なお、当日参加とともに、音声CDをご希望の方には、特別割引いたしますのでお問い合わせ願います。
- ※ 参加費の払い戻しは致しません。申込者の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。
- ※ 受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

支払方法： 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麴町支店 普通 1159880 三菱UFJ銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麴町支店 普通 7411658 郵便振替 00110-8-81660

口座名 (株)地域科学研究会

(ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は ⇒ <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/> E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)

☆ 高等教育計画経営研究所同人についてはKKJのHPでご確認願います。

☆ ご案内をパンフからメールにシフトしております。メールアドレスをご登録くださいませ。

お申込み・お問合せ



地域科学研究会  
高等教育情報センター

東京都千代田平河町2-3-10 ライオンズ平河町101  
TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993 〒102-0093

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

年 月 日

(□に✓印を入れてください)

高等教育活性化シリーズ 393

科研費改革の進展と申請・獲得方策Ⅲ

高等教育活性化シリーズ 397

研究・実験データの保管・共有の推進方策Ⅱ

一般  同人

当日参加  メディア参加

一般  同人

当日参加  メディア参加

支払方法  当日払い  銀行振込  郵便振替

必要書類  請求書  見積書  領収書

勤務先

〒

(請求書等記載の宛名)

所在地

連絡部課・担当者名

TEL

FAX

メールアドレス

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
<p>10:00</p> <p>}</p> <p>11:30</p>	<p>□ JSPSの学術振興施策について ～ 科研費制度の最新動向を中心に ～</p> <p style="text-align: right;">(独) 日本学術振興会 牛尾 則文</p> <p>1. そもそも科研費とは</p> <p>(1) 科研費の位置付け</p> <p>(2) 予算額と応募・採択の状況</p> <p>2. 科研費審査システム改革 2018 とは</p> <p>(1) 改革の背景とねらい</p> <p>(2) 改革のポイント</p> <p>(3) 改革後のさらなる改善・充実</p> <p>3. 日本学術振興会のその他の取組</p> <p>(1) 国際共同研究の支援</p> <p>(2) 若手研究者への支援</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
<p>12:30</p> <p>}</p> <p>14:30</p>	<p>□ 大学による科研費支援策と研究計調書のチェックポイント ～ 研究マネジメントとしての科研費支援 ～</p> <p style="text-align: right;">(公) 横浜市立大学 岡野 恵子</p> <p>1. 大学における科研費の位置付け</p> <p>2. 研究者育成と科研費</p> <p>3. 大学による研究環境整備と科研費支援</p> <p>4. 研究計画調書の作成・改善のポイント</p> <p>5. 科研費支援で得られた情報を研究マネジメントにどう生かすか</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
<p>14:40</p> <p>}</p> <p>16:40</p>	<p>□ 大学と大学人にとっての科研費研究のPDCA ～ 小、中規模の大学ほど変えられる研究風土 ～</p> <p style="text-align: right;">大妻女子大学 大澤 清二</p> <p>1. 文系大学の研究と研究支援活動</p> <p>(1) 2年で変える大学の研究風土と研究支援活動</p> <p>(2) 科研費申請のための塾</p> <p>(3) 学内における競争的資金の新設と運営</p> <p>(4) 学内における共同研究の支援戦略</p> <p>(5) 若手研究者向け学内競争的資金</p> <p>(6) オンラインジャーナルを成功させる</p> <p>(7) 電子書籍を出版すると</p> <p>(8) 最低限の情報提供としてのニューズレター</p> <p>2. 科研費で研究PDCAを回す研究風土の形成</p> <p>(1) 科研費申請のホップ・ステップ・ジャンプ</p> <p>(2) 知っておきたいポイント</p> <p>(3) 理想的計画調書とは</p> <p>(4) 研究計画調書の構造</p> <p>(5) 「着想の経緯」の書き方</p> <p>(6) 「研究方法」は明解に</p> <p>(7) 科研費申請の新たな条件への対応</p> <p>(8) 「人権の保護と法令」</p> <p>(9) 「研究体制」で失敗しないために</p> <p>(10) 審査を意識した計画調書づくりを</p> <p>(11) 提出前に確認すること</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>

時間	講義項目
10:00 }	<p>□ 世界と日本のオープンサイエンスと研究データ管理の動向 ～ 日本は研究データ管理にどのように向き合えば良いか? ～ 国立情報学研究所 船守 美穂</p> <p>1. 世界におけるオープンサイエンスの動向 (1) オープンサイエンスとは (2) オープンサイエンスの駆動力 (3) オープンサイエンスにおける研究データ管理の位置づけ</p> <p>2. 世界の研究データ管理を取り巻く動向 (1) 研究助成機関による要求 (2) 「研究の再現性」担保の必要性 (3) データ共有の基準としての FAIR 原則 (4) 研究データインフラ構築・整備の動向 (5) 大学における研究データ管理の支援体制 (6) 研究データ管理のトレーニングコース</p> <p>3. 日本における研究データ管理の動向 (1) 日本のオープンサイエンスに関わる政策動向 (2) 日本の研究助成機関の動き (3) 日本の研究不正防止への対応と研究データ 10 年保存ルール (4) 日本の研究データインフラ構築・整備の動向 (5) 大学における研究データ管理体制の整備に向けて (質疑応答)</p>
11:40 }	<p>□ 人文学・社会科学系データの共有・活用の制度基盤 ～ データインフラストラクチャー構築推進事業の取組みと実際 ～ (独) 日本学術振興会 前田 幸男</p> <p>1. 人文学・社会科学データを共有する制度基盤 (1) 公共財としてのデータ共有基盤 (2) データの共有を阻む要因 (3) データの共有を促す政策</p> <p>2. 諸外国における人文学・社会科学データインフラストラクチャーの事例 (1) アメリカ合衆国の事例(分散型) (2) ヨーロッパ諸国の事例(集中型/連携型) (3) 東アジア諸国の事例</p> <p>3. データインフラストラクチャー構築推進事業の取組みと実際 (1) 事業着手に至る背景 (2) 各拠点機関の活動 (3) 総合データカタログの整備 (4) 日本における(日本を対象とした)人文学・社会科学研究の発展のために(質疑応答)</p>
14:00 }	<p>□ 国立情報学研究所(NII)研究データ基盤の紹介 ～ 研究推進と研究公正のための研究データ管理 ～ 国立情報学研究所 込山 悠介</p> <p>1. NII 研究データ基盤(NII リサーチ・データ・クラウド) (1) NII リサーチ・データ・クラウド概要 (2) 研究データ管理サービス GakuNin RDM (3) 研究データ公開サービス WEKO3 (4) 研究データ検索サービス CiNii Research</p> <p>2. 研究データ管理サービス GakuNin RDM の紹介 (1) GakuNin RDM のサービス詳細 (2) GakuNin RDM の基本機能とシステム管理者機能 (3) 標準ストレージと拡張ストレージ (4) GakuNin RDM と自機関のクラウドストレージの連動</p> <p>3. GakuNin RDM 実証実験の紹介 (1) GakuNin RDM 実証実験について (2) 実証実験の現状報告 (3) 実験参加機関でのユースケース紹介 (4) 機関での GakuNin RDM 導入のご案内 (質疑応答)</p>
15:30 }	<p>□ 大学での研究データマネジメントの全学的取組み ～ 学術データの保存と利活用の取組み ～ (国) 京都大学 青木 学聡</p> <p>1. オープンサイエンスと研究データマネジメント (1) 学術機関からみたオープンサイエンス (2) データ中心、データ駆動科学への関心 (3) オープンサイエンス政策</p> <p>2. ボトムアップでの全学的研究データマネジメント体制の模索 (1) 京都大学アカデミックデータ・イノベーションユニット (2) 大学内のステークホルダ (3) 研究データの利活用に関する実態調査 (4) 研究データマネジメントに関する自己評価と相互理解</p> <p>3. 理想の研究データマネジメント環境とは? (1) 学術機関が期待する研究データマネジメント環境 (2) 学術ドメインが期待する研究データマネジメント環境 (3) 研究者が期待する研究データマネジメント環境 (4) まとめ (質疑応答)</p>